

ラオス・タイ旅行記 No.2

(首都ビエンチャン：その2)

戸田 順也

前回は首都ビエンチャンの到着翌日の分を報告しましたが、今回はビエンチャン報告の第2回目です。

今回の旅行で訪れたラオス・タイはご存じの通り仏教国で、やたら寺院の多い国です。したがって、当然のことながら主な見所としてはお寺さんとなり、もっぱらお寺巡りが今回の旅行のメインテーマとなりました。

今回の報告では、寺院としてはビエンチャンを代表する寺院であるタートルアンと願掛けで多くの女性が訪れるワット・シームアンを紹介します。また、市内の代表的な建築物である、パリの凱旋門によく似たパトゥーサイと迎賓館を紹介するとともに、市内の交通状況も報告します。

[パン屋で朝食]

ホテルでの朝食があまり美味しくなかったのが、二日目の朝は前日コーヒーを飲みに入



写真 1

った店で朝食をとることにしました。この店は SCANDINAVIAN BAKERY という看板を掲げており(写真1)、けっこう様々な種類の美味しそうなパンを売っていました。

このパン屋さんでは1, 2階でコーヒーを飲んだり、食事を取ったりすることができますし、店内では無料で Wi-Fi を使うことができますので、インターネットを

使ったり、メールの確認をすることができます。朝食(写真2)は2階のバルコニーで取ることになりましたので、オープンスペースで気分の良い朝食となりました。このメニューで約 380 円でしたが、私にとって量的には十分でした。店には朝早くから沢山のお客さ



写真 2

んがパンを求めて来店しており、けっこう流行っていました。この店はパン屋が本職のようですが、写真3に示しましたようにケーキ類も売っており、沢山の美味しそうなケーキが並んでいました。

上記のようにこの店では Wi-Fi を使うことができ、旅行者には大変便利です。ラオスのみならず最後に訪れましたタイのチェンマイでも、多くの店でこのようなサービスをしています。もちろん今回泊まったホテルでもこのサービスがありました。

私も今回の旅行にはタブレット PC を持って行きましたので、大変重宝に使うことができました。

ゆっくり朝食を取って一度ホテルへ戻り、翌日の空港へ行く為の無料シャトルを予約したりした後に本日の行動開始です。



写真 3

[ATM 利用]

外国旅行をする際に如何にして現地通貨を入手するかは大切なノウハウです。通常の方法としては、銀行や両替商を利用することになりますが、その際の手数料がけっこうな額になります。じっさい、成田空港内の両替商を利用した場合の経験では、両替店によっては円からドルに両替する場合、1ドルあたり2円も違うことがありましたので要注意です

パトゥーサイに向かう途中で ATM があったので利用して現地のお金を入手することにしました。ATM でクレジットカードを使って現地のお金を引き出す(借りる)のです。この場合は原則として手数料無しの当日の為替相場で両替できます。もちろんクレジットカードを使うのですから利息が掛かります。しかしながら、この場合は一括返済が認められておりますので、帰国したら速やかに電話で連絡して直ちに返済すれば短期間の利息で済むこととなります。ただし、ATM 利用ということで、1回あたりの利用料が105円かかるのは日本国内と同じです。

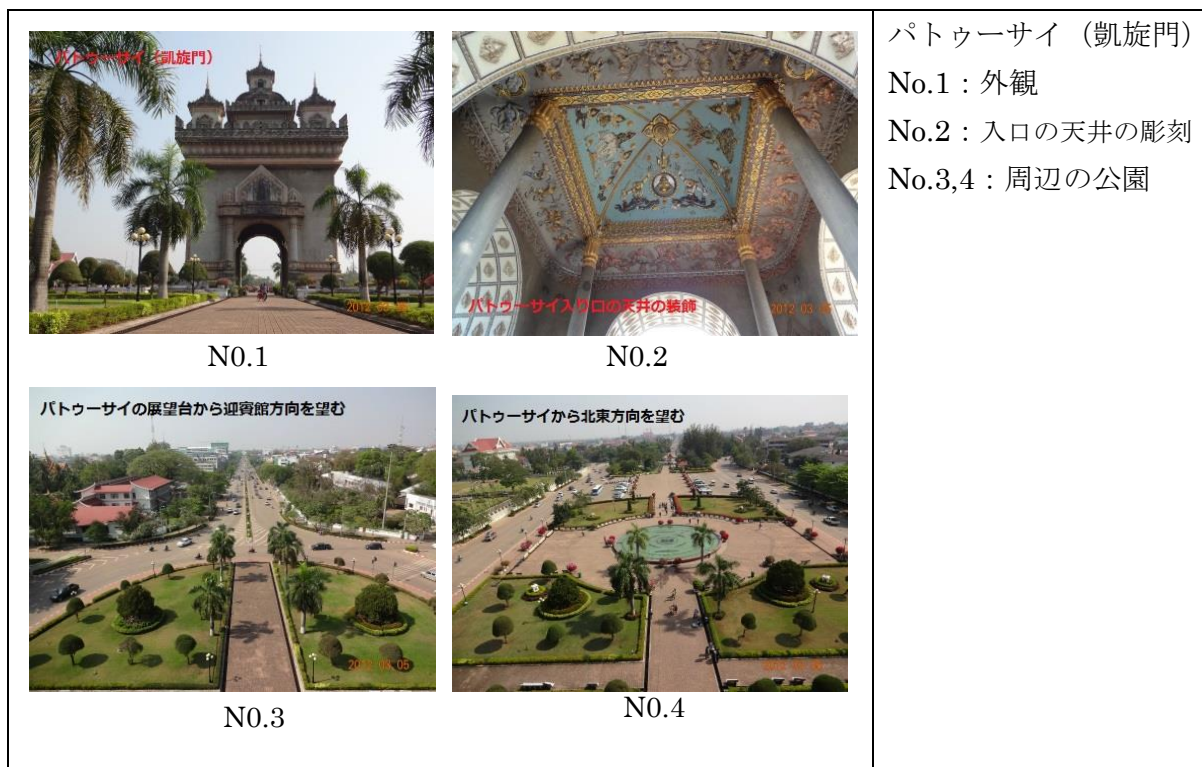
しかしながら、ATM を運営している現地の銀行によっては、上記の日本の銀行の手数料の他に相当高い ATM 利用料を取ることがありますので注意する必要があります。実際この旅行の最後に訪れたタイのチェンマイでは利用しようとした複数の銀行の ATM 利用料が随分高いため ATM の利用をやめ両替店を利用しました。

[パトゥーサイ]

パトゥーサイはパリの凱旋門をモデルとして戦没者慰霊塔として建てられた記念碑

だったのですが、2000年にパトゥーサイ(凱旋門)と名称が変わったそうです。その入口の天井などの彫刻は素晴らしいもので、外観は完成しているように思われますが、内部は資金不足からだと思いますが全く未完成で、薄暗い照明でお土産品屋が出店しているだけでした。上部は市内を一望に見渡すことができる展望台となっております。

パトゥーサイの周りは公園となっており、ここが市内の観光スポットであるため地方からの観光客相手の写真屋が数人たむろしておりました。



パトゥーサイ周辺は官庁街となっておりまして、隣接して首相府(写真 4)や司法省、国土交通省、農林省などがあります。



写真 4



写真 5

パトゥーサイは前回紹介した迎賓館とは約 2Km の見通しの良い片側 3 車線ほどの直線道路（ランサーン通り）で相対しております。このランサーン通りは市内随一の目抜き通りとなっております(写真 6)。

写真でも分かるように、ランサーン通りの交通量はけっこう多く、また道幅も広い為途中の交差点には信号機も設置されております。しかしながら、信号の制御は歩行者にはほとんど気を遣っていないようで、歩行者は車が途切れるのを見計らって横断しなければならないような状況でした。たまに歩行者用の押しボタンがあるのですが、ほとんど故障状態でした。しかし、交通量そのものの絶対量はあまり多くはありませんので、車の運転のマナーはそれほど悪くはなかったように思います。

また、市内では白バイ(と言うかどうかは分かりませんが)が用もないのにけたたましくサイレンを鳴らしながら走っているのもときどき見かけました。白バイには 2 人の警察官が乗ることになっているようです。

[タート・ルアン]

次に出かけたのはビエンチャンのシンボルと言われている寺院のタート・ルアンです。ここはパトゥーサイから徒歩で約 30 分のところにあります。

敷地の真ん中には一辺が 60m の正方形の土台の上に、高さ 45m の黄金の塔がありまして、その中には仏舎利が納められているそうです。



写真 8



写真 6



写真 7

寺院の前には野菜・果物や衣類などを売る市場が開かれておりまして、多くの参拝客が訪れることが分かります。

写真9と写真10はタート・ルアンを外から見たものですが、外壁の周辺は約85mの正方形です。その中に仏舎利を納めた塔があるわけです。



写真 9



写真 10

写真11と写真12はタート・ルアンの仏舎利塔へ上るための入口に当たりますが、ここにも信者の方が供えたお供え物がありました。



写真 11



写真 13

写真13は写真7と同じような写真ですが、手前を歩く旅行者と比べるとその大きさが分かります。この大きさの塔が燦然と黄金色に輝いている様は本当に見事なものです。



写真 12

次に訪れたのは、ワット・シームアンという寺院です(写真 14、15)。



写真 14



写真 15

このお寺は願掛けで有名なお寺ということです。そのためだろうと思いますが、それほど大きなお寺ではありませんがビエンチャンの寺院の中では最も多くの参拝者が訪れるといわれているそうです。

写真 16 は願掛けに来ている女性達です。境内には参拝者向けのお供えものを出店もありました(写真 17)。

また、本堂の横にはお祓いをしてもらうためと思われる車が数台止まっていた。



写真 16



写真 17



写真 18